

2025年度 自己評価結果と今後の課題

認定こども園岩見沢天使幼稚園

1. 園の教育目標

『子ども本来の姿を伸ばし、感謝の心と豊かな人間性を形成する』を基本に、心身の健やかな成長を図り、環境との豊かな関わりを通じて自立した生きる力を育てていく。

地域におけるすべての子育て家庭を対象に、支えとなる活動や親子の集いの場所の提供を充実させて、多様かつ総合的な支援を進めていく。

1. 感謝の心と思いやりの心を大切に
2. 個性を尊重
3. 生きる力の基礎（縦割り保育）
4. 主体的な生活と行動力
5. 豊かな体験
6. 保育と教育の一体化

2. 学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育と保育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目の達成および取組み状況

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	異年齢の子ども達それぞれの育ちを大切にしながら、発達や関わりを踏まえた保育計画を進めることができた。一方で日々の業務の忙しさから、準備が直前になることもあり、計画的に進められることがこれからの課題である。
II 保育のあり方 幼児への対応	縦割りクラスの中で、年上の人が年下の人を思いやる姿や、年下の人が憧れを持つ姿など、社会性が育つような関わりを意識することができた。また、互いに助け合える関係を無理に強いるのではなく、どうすればみんなが楽しく過ごせるかを子ども達と一緒に考えながら園生活を送ることで、安心して自分の思いを表現する姿に繋がった。一方で、長時間園で過ごす子ども達も心身共に安定して過ごせるよう、ゆったりと過ごせる時間や環境の工夫を今後も大切にしていきたい。
III 保育者としての 資質と能力	子どもの思いを汲み取った保育を大切にする中で、保育の面白さを感じ、園児へ愛情をもって関わる職員の姿が多く見られた。また、本園で経験を重ねている職員が、これまでの実践や考えを丁寧に伝え、それを新しい職員が真摯に学ぼうとする姿勢は、園全体に良い影響をもたらしている。さらに、記録と報告を大切にすることで、情報共有が図られ、全職員で子どもの様子を把握することができた。
IV 保護者への対応	アプリを活用した欠席連絡や預かり保育の申込は、保護者の利便性向上につながった。感染症の流行状況等についても適宜配信を行い、園からの情報発信の充実を図ることができた。一方で、日々の業務に追われ、保護者とゆっくり向き合い話をする時間が十分に確保できなかった点は課題である。来年度はアプリを活用した保育の可視化を進めるとともに、業務の見直しや効率化を進め、保護者と丁寧に関わる時間の確保に努めていきたい。

V 地域の自然や社会との関わり	消防署・警察署の見学、JAや農家の方にお世話になった田植え・稲刈り。また、けん玉の先生との交流、祖父母の方を招いての敬老の日の集いなどを通し、地域の方々と触れ合う機会を得た。また公開保育日には他園の先生方を迎え、挨拶や発表など普段はあまり味わえない貴重な経験が実りとなった。
VI 研修と研究	研修会を開催する立場となり、子ども達の育てたい力について職員間で共有し、学びを深める機会に恵まれた。主体性を大切に子ども達が中心となって活動を進められたことで、自ら考えて行動する意欲的な姿が多くみられるようになった。また、想像力や豊かな感性を育むことを大切に、絵本の読み聞かせの時間を多く取り入れたことで、自由時間に自ら絵本を選んで読む子どもが増えた。今後も物語に触れる時間を充実させ、豊かな心の成長に繋げていきたい。

4. 学校評価結果

A	<p>手洗いや換気の徹底、発熱時の迅速な家庭連絡に努めてきたが、今年度は感染症が流行する場面もあり、今後の課題として捉えている。保護者の協力のもと状況把握や注意喚起を行いながら対応できたことは大きな支えとなった。今年度も縦割り保育の中で子ども同士の関わりを深めてきたことで相手を思いやる姿や支え合う経験が積み重ねられている。また子どもの思いに寄り添い、主体性を大切にしたり関わりを心がけ、安心して自分を表現する姿へと繋がっている。</p> <p>来年度はクラス替えによる新たな出会いも大切にしながら、クラス担任と過ごす時間を充実させ異年齢ならではの成長を見守るとともに、明るく前向きな保育を通してより豊かな園生活を育んでいきたい。</p>
---	---

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
こども園としての役割	これまで同様、縦割り保育を活かしながら豊かな関わりを育み、子どもの健やかな成長を支えていくこと、また地域との交流も大切にすることで、人との繋がりを大切にした保育を展開させたい。子育て世帯が安心して過ごせる場所として子育て支援の役割を果たしていきたい。
保育者としての資質向上	教育理念を意識し、園の温かさや大切にしてきた保育観を共有しながら連携の充実を図る。また積極的に研修へ参加し、学びを職員間で伝え合うことで互いの力を発揮できる職場づくりを目指す。さらに先を見通した早めの対応を心がけ、目標や目的を持った実践に繋げていきたい。
健康と安全な生活	子ども達が安心して生活できるよう、感染症予防に関する情報発信を引き続き丁寧に行っていく。また避難訓練を通して、自らの命や身体を守る意識を育てていきたい。さらに気候変動に伴う熱中症リスクの高まりを踏まえ、活動内容や環境面を柔軟に見直し、安全で健康的に過ごせるよう努めていく。
子育て支援・園児募集	少子化の中でも選ばれる園を目指すとともに、子育て世代の保護者が気軽に立ち寄り、ほっとできる居場所のような存在となれるよう、開かれた温かな雰囲気づくりを大切にしていきたい。
特別支援教育	子ども一人ひとりの発達や特性に寄り添った関わりを大切に、安心して過ごせる環境作りに努めていく。また職員同士の情報共有や連携を密にし、適切な支援につなげていくとともに、小学校への円滑な接続を見据えた関わりを意識していきたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

浦滝 香澄 様 (特別支援学校教諭)

概ね、職員評価にAが多く、先生方が自信をもって日々の教育活動や保護者対応等に当たられている一方で、「B：達成できている」の評価が目立ちます。教育理念や教育目標、またキリストの教えを教育活動の中に先生方お一人おひとりがしっかりと理解し落とし込むことができているか、子どもに伝えたいことは何なのかを明確にし、指導案の中に入れて日々意識しながら子どもと接するなど、今一度振り返るきっかけとなっているのかなと感じます。また、「当番や役割による仕事は手早く確実に行う」や、「自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う」については、先生方が日々忙しくされ、苦しんでいらっしゃる様子も垣間見えるかと思えます。

昨今、働き方改革とされる中で、保護者からの要望や様々な子どものニーズに応えなければならず、先生方のご苦労はいかばかりかと推察いたします。

しかし、全ての要望に応じるのは無理なことであり、園は園独自のカラーを打ち出しながら、それが教育活動の内容であるのか、どのような目的・ねらいをもって子ども達へ伝えるのかななどを検討し、活動や行事内容の精査をするべきかとも思います。

全員が満足できなくても、園としての最適解を導き出し、「これが天使幼稚園です」と自信をもって教育活動を進めていただきたいと思います。

來嶋 康之 様 (メーブル小学校PTA会長)

天使幼稚園を子供たちが卒園してから評価委員として園の活動に関わらせて頂き、2年経ちました。昨年は運動会を小学生になった娘たちと応援させて頂き、先生たちと再会できたことを大喜びしておりました。自分たちが園に通っていた時とは、認定こども園に変わり、連絡等のアプリでの使用がすっかり当たり前になったのだなと変わったことも感じますが、時折顔を出した時の園の雰囲気は昔と変わりません。天使幼稚園は子供たちに合わせて、決まりだから出来ないのではなく「では、こうしましょう。」と言ってくれた園です。今でもそのことを感謝しております。どんな時代も子供たちに変わりはないと思います。先生たちの御苦労は察することしか出来ませんが、今まで通りの天使幼稚園であることを望みます。

松井 摩美 様 (元天使幼稚園父母会会長)

この度、天使幼稚園の自己評価資料を拝見し、全体としてとても丁寧であたたかい保育が行われていると感じました。特に、先生方が子ども一人ひとりの気持ちに寄り添おうとしている姿勢や、園全体で連携しながら子どもたちを見守っている点がとても良いと思います。また、縦割り保育をはじめ、自然体験や季節の行事などに幅広く取り組むことで子どもたちの心の成長につながっていると感じます。連絡アプリの活用などで家庭との連携を大切にしていることも好印象です。

一方で、行事会場の広さ、写真や日常の様子共有方法などについて、改善が期待される点もいくつか挙がっていますが、こうした声に対して園が丁寧に説明し、改善に向けて前向きに検討する姿勢が示されていることも、とても好感が持てる対応です。

総じて、天使幼稚園は子どもの育ちを大切にし、保護者とも協力しながら安心して通える環境づくりにしっかり取り組んでいると感じました。今後も園と家庭が一緒によりよい園づくりを進めていけることを期待しています。